



## 久しぶりに福岡市に戻ってきた

第四十四回 福腎協大会開催

六月五日(日)午前10時30分から福岡市のパピオン・ガスホールで福岡県腎臓病患者連絡協議会(以下福腎協)主催の第四十四回大会が行われ、「さわやか」からはそれぞれ腎友会の会員として高原、山田が参加しました。

天候不順の中、ガスホールには、県内各地から会員と家族、透析施設の先生方やスタッフ、関係機関の方々を含め総勢四五〇名の参加者がありました。

熊本県の地震において福腎協会員一同より心からお見舞い申し上げます。熊本県には九〇ヶ所の透析施設があり、震災当初は透析施設が被害を受けて、透析が出来なく、透析が可能な病院に通って短時間透析を余儀なくされていましたが、今は通常通りの透析に戻っています。

最初に、塩屋利且会長から「本日、第四十四回福腎協大会を開催することができました。久しぶりに福岡市に戻ってきました。一昨年は、北九州市で昨年は久留米市で大会を行い、各地区の役員や行政との交流が出来た大会になったのではないかと思っています。最初に、今も余震が続く

また、福岡県には一九四ヶ所の透析施設があります。長時間透析をしっかりと行っているのは福岡県だけです。先生方に、この揺るぎない環境を維持していただいていることに患者一同感謝申し上げます」と主催者挨拶がありました。

次に、福岡県透析医学会会長百武宏幸先生をはじめ来賓の方々に祝辞をい

講演が始まる前に、福腎協事務局が制作したスライドで「白いブランコ」のBGMにのせて講師の平方秀樹先生の紹介がありました。平方秀樹先生は、福岡赤十字病院を三月に退官され、現在は福岡腎臓内科クリニックの院長として活躍されています。

先生は、「医学生の頃から臨床研修基礎研修をずっと行ってきたことを皆さんにご報告したいと思います。腎不全の患者さんの高血圧には、レニン依存性高血圧と塩依存性高血圧があります。

腎臓には、レニンというホルモンを分泌して血圧の調節をする働きがあります。腎不全ではレニンが過剰に分泌されるので血圧が高くなります。これをレニン依存性高血圧といいます。また、腎臓から塩分や水分が排泄されず体内の塩分、水分が増加し血圧が高くなることを塩依存性高血圧といいます。

また、第二部のアトラクションとして福腎協大会落語があり、江戸と上方落語の共演で、「抱腹絶倒!笑う門には福来たる」として、大いに笑ってたくさん福を呼び込もうというところで、南遊亭栄歌(なんゆうてい えいか)さんは演題「やかんなめ」、粗忽家酔書(そこつや よいしょ)さんは演題「ちりとてちゃん」をそれぞれ披露されました。

皆ひと時を忘れ、笑いに包まれ、十四時三〇分に福腎協大会は終了しました。



福腎協大会の様子  
 (写真提供 福腎協より)

## 事務局よりお盆休みのお知らせ

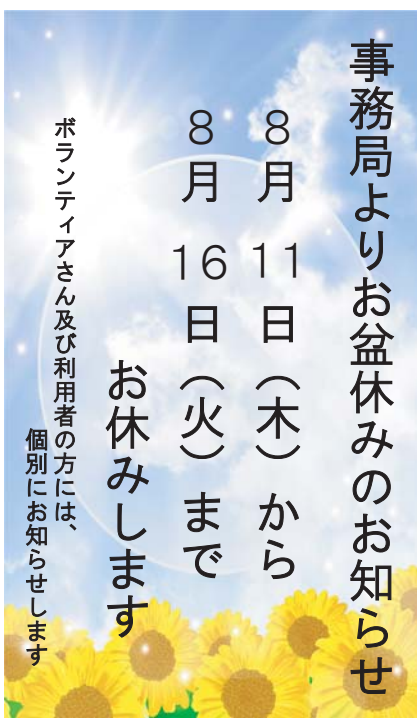
8月11日(木)から

8月16日(火)まで

お休みします

ボランティアさん及び利用者の方には、

個別にお知らせします



ただきました。その後第一部の記念講演に入りしました。

## 記念講演「胃心のまわりから真ん中へ」

医療法人医心会 福岡腎臓内科クリニック 院長 平方 秀樹 先生



講演会終了後に・・・

中島由希子 事務局長から 平方秀樹先生へ 感謝の花束贈呈

サプライズで 平方秀樹先生から最愛なるパートナー 平方恵理子先生へ花束のリレー

お昼になったので、お弁当を座席で雑談しながら食べました。透析はたちを迎えた方は

県内で九十三名

休憩を挟んで、透析導入満二〇年を迎えた患者さんへの記念品贈呈があり、今年には九十三名の方々が透析はたちを迎えたそうです。次に、壇上では福腎協の新役員の紹介がありました。

## 落語



# 北九州市障害福祉部との意見交換会

平成二十八年度第一回障団連全体会開催



七月九日(土)十時よりウエルとばた六階六AB会議室で北九州市障害福祉連絡協議会(以下障団連)主催の平成二十八年度第一回障団連全体会が開催されました。

今回は今年度に行われた行政の組織変更や職員の異動に伴い、前回の総会時の勉強会ではできなかった、市障害福祉部の方々との意見交換会を行いました。

「さわやか」から四名が参加し、障団連の各団体から約五十余名の参加がありました。

初めに古賀事務局長から開会の挨拶がありました。



障団連の北原 守会長と北九州市障害福祉部の方々

## 差別解消法が市民に対し

### 啓発が進んでいない

続いて北原守会長は「四月に障害者差別解消法が施行されましたが、市民に対する啓発はなかなか進んでいません。

障害者も行事参加や地域貢献を積極的に行い交流をしていくことが大事ではないかと思っています。

また、北九州市は全国的に見ても行政と運動体が信頼関係をもって、しっかりと結びついていきます。当然、立場は違いますが、目的は同じです。

今日はこの全体会を通してお互いに顔を見知って、信頼関係を作るきっかけにしてください」と挨拶がありました。

それぞれ自己紹介(右左参照)を行い、その後保健福祉部の組織改正について末吉課長から説明がありました。内容については総会時の説明と重複するので、それぞれの部局が市役所の何階にあるのかということと、各部署の電話番号や、ファックス番号を教えていただ

北九州市からの出席者

障福祉企画課長	末吉和久氏
企画調整係長	廣渡実和氏
差別解消法担当係長	秦 勝彦氏
障害者支援課長	西尾典弘氏
発達障害担当課長	安藤卓雄氏
地域福祉推進課長	名越雅康氏

## 新・総合療育センター(本体) 再整備について

次に西尾課長より、新・総合療育センター(本体)の再整備について説明がありました。外来診療科目が十二科目から十三科目になり、入所、入院、通所がそれぞれ増員されます。センターのイメージ、パスや、部門配置計画(案)の説明がありました。

ここで、林副会長から「北九州市の障害者相談支援体制について」という議題については、持ち越しにさせていただきます」と提案があり、担当の安藤課長が「改めて機会をいただいて、じっくり時間をかけてお話しさせていただきます」と話されました。

## 北九州市高齢者・障害者 住まい探し協力店 紹介制度が開始

その後、安藤課長より、高齢者・障害者住まい探し協力店紹介制度についての説明がありました。「この制度は、今年五月二十七日に開始された制度で、高齢者や障害者が民間の賃貸住宅に入居する際に安心して住宅を探すことができ、また、家主さんの不安や相談にも応じてくれるということで、開始時点で市内の三十九の宅地建物取引業者がこの趣旨に賛同し登録しています」と話されました。

## 協力店紹介制度についての説明がありました。

「この制度は、今年五月二十七日に開始された制度で、高齢者や障害者が民間の賃貸住宅に入居する際に安心して住宅を探すことができ、また、家主さんの不安や相談にも応じてくれるということで、開始時点で市内の三十九の宅地建物取引業者がこの趣旨に賛同し登録しています」と話されました。

## 障害者差別解消条例に

### 関する論点整理

次に秦係長より障害者差別解消条例に関する論点整理について説明がありました。

他都市の条例の主な内容を話され、また、市の条例策定にあたっての課題の中で、「六月に福岡県議会で知事が『第三者機関の設置及び条例を制定する』と答弁しました。

それによって福岡県条例との調整が必要となり、県条例を適用する場合と、北九州市で独自に制定する場合など今後の検討課題になっています。



また、今後設置される差別解消地域協議会でも検討していきたく」と話されました。

## 災害時障害者 サポートマニュアル及び福祉避難所について

災害時対応については、まず末吉課長から、四月に発行した「災害時障害者サポートマニュアル」について説明がありました。

続いて名越課長より福祉避難所について説明がありました。四月に起こった熊本地震や東日本大震災など過去の震災を教訓にして、今後の課題を検討していきます。

要配慮者の避難支援については、一般避難所における福祉避難所のスペースの確保とその運営

・福祉避難所の施設数の拡充

・公共的な建物の借用、及び避難所スタッフなどの人材や機材の確保などの課題があり、障害者団体と共に考えていきたいと言われました。

廣渡係長からは、「平成二十八年度北九州市障害児・者実態調査」の概要について説明がありました。

最後に古賀事務局長は、「今回は課題が多くひとつひとつについて深く掘り下げることでできなかったことを反省し、次回の全体会につなげていきたいと思えます」と言われ、正午に全体会は終了しました。